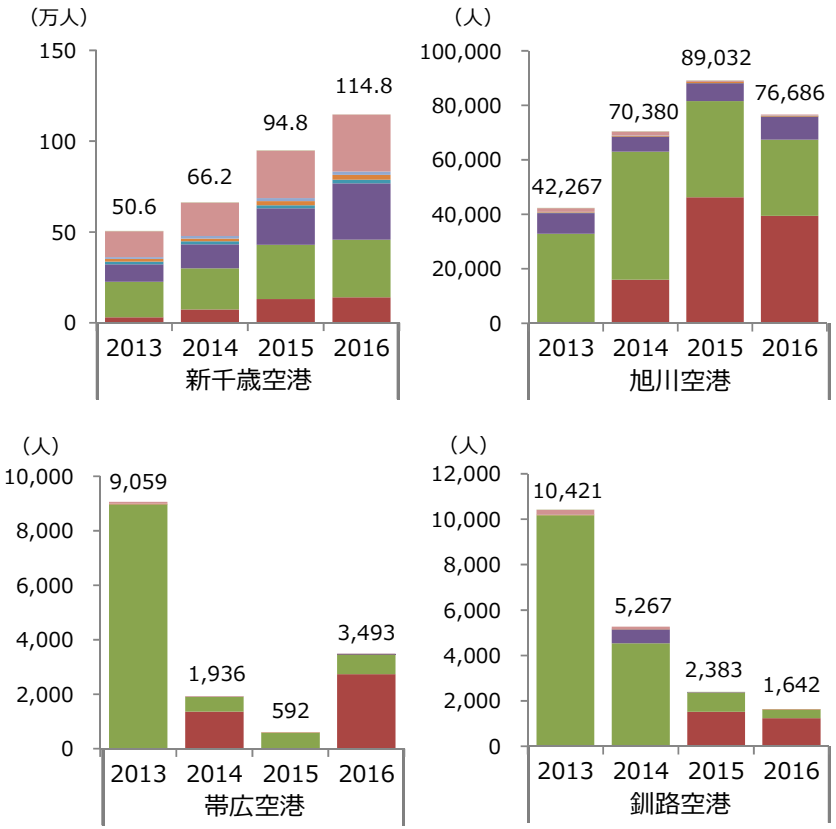
「数字で見る北海道稚内市のインバウンド」

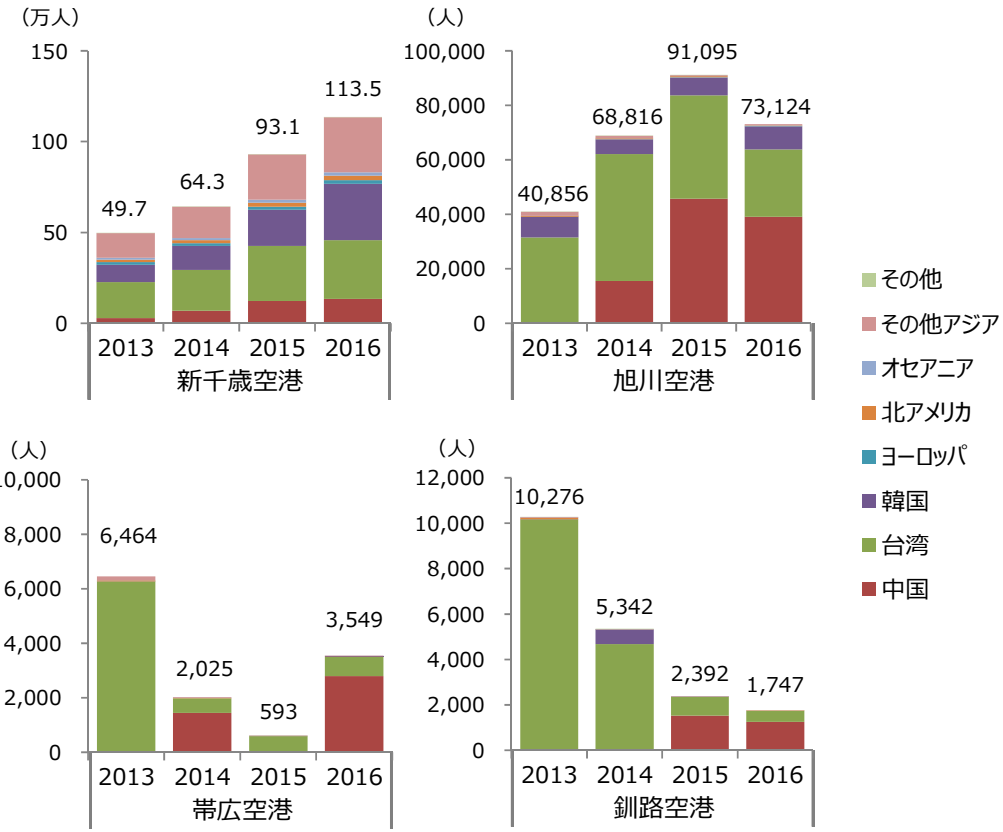
空港別／国・地域別訪日旅行者数

- 道南エリアを除いた北海道内の主な4空港の出入国者数をみると、新千歳空港はここ4年間一貫して入国者・出国者ともに増加。旭川空港は2015年まで増加していたが、2016年は減少。帯広空港は年によって差が大きい。釧路空港は減少傾向にある。
- 出入国者の国・地域は、4空港とも中国・台湾が多く、新千歳空港は韓国も多い。

空港別　国・地域別入国者数

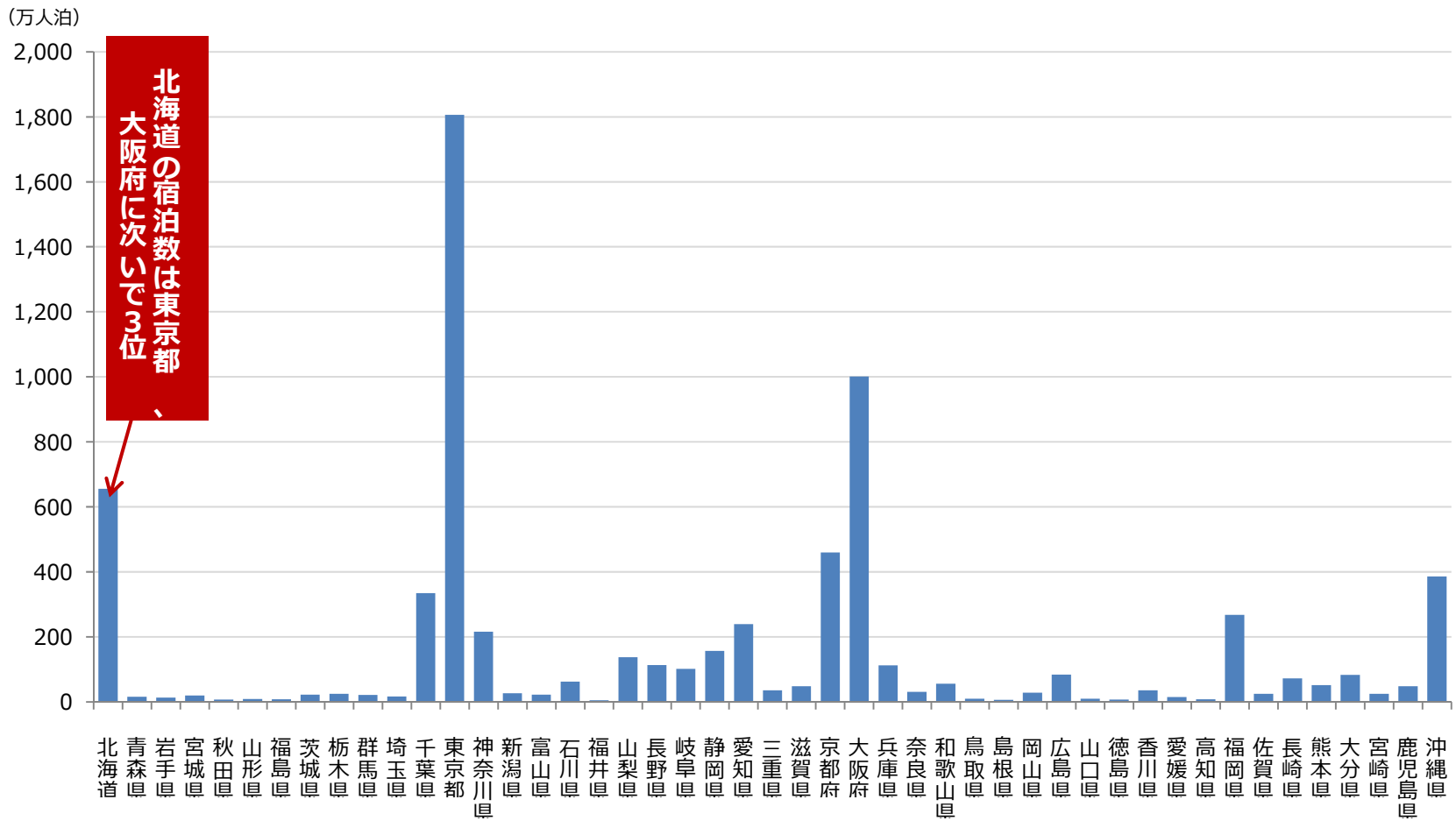


空港別　国・地域別出国者数



出典：「出入国管理統計」（法務省）を元に（株）JTB総合研究所が作成

県別外国人宿泊数



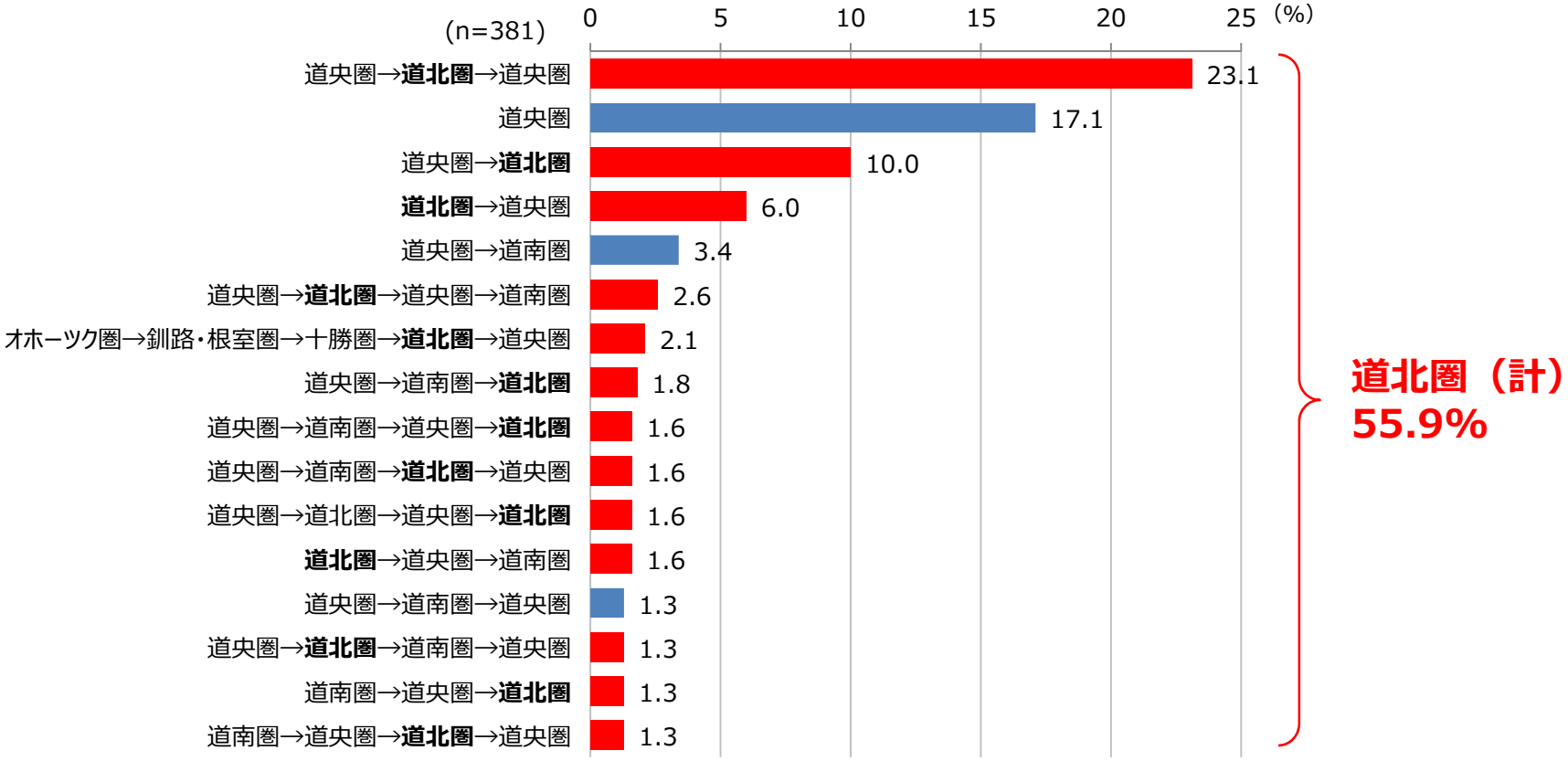
※2016年 延宿泊者数（1人が2泊した場合2人とカウント）

出典：「宿泊旅行統計調査」（観光庁）を元に（株）JTB総合研究所が作成

訪日客の訪問地

- 北海道を訪問した外国人の周遊ルートは「道央圏→道北圏→道央圏」が最も多い。
- 主なルートのうち稚内市がある「道北圏」が周遊ルートに含まれる割合を合計すると55.9%となり、半数以上が道北に訪れていることになる。

圏域別の観光周遊ルート



※上位より抜粋

稚内市の誘客ルート

◆ 主なインバウンド客の誘客ルートとしては、札幌から直通の特急「宗谷」、旭川からの特急「サロベツ」によるものが主に想定される。

宗谷本線　特急「宗谷」「サロベツ」

稚内
豊富
名寄
士別
旭川
滝川
岩見沢
札幌

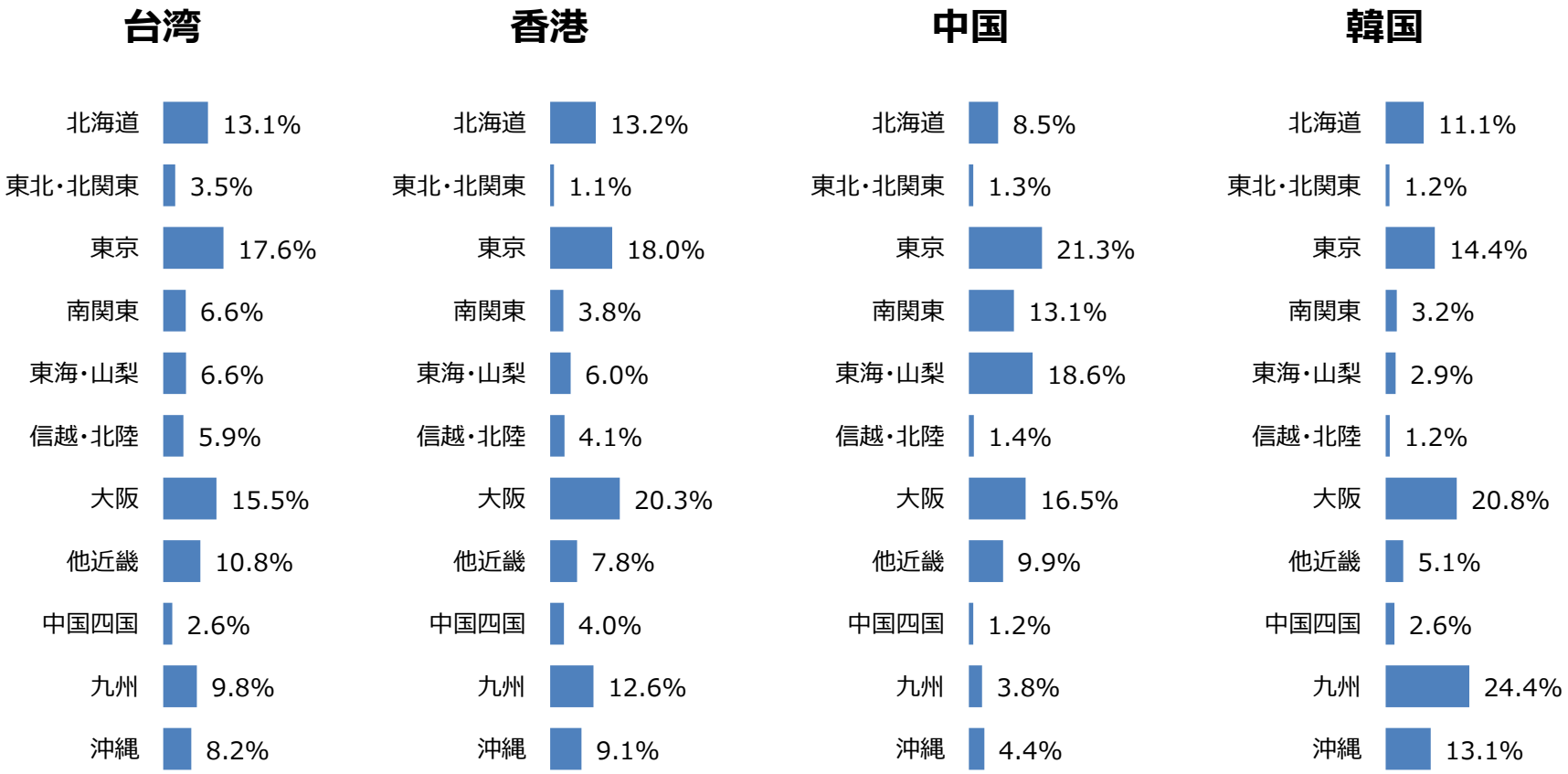
旭川～稚内
3時間40分

札幌～稚内
約5時間

出典：JR北海道ホームページを元に（株）JTB総合研究所が作成

主な国籍別にみた外国人の宿泊地の分布

◆ 稚内に来訪していると考えられる主な国籍の旅行者の宿泊地分布をみると、台湾と香港は分散傾向が強く（リピーターが多いため）、中国は逆に大都市とその周辺への集中度が高い（初来日者の比率が高いため）。韓国は西日本に偏在している（近距離性）。



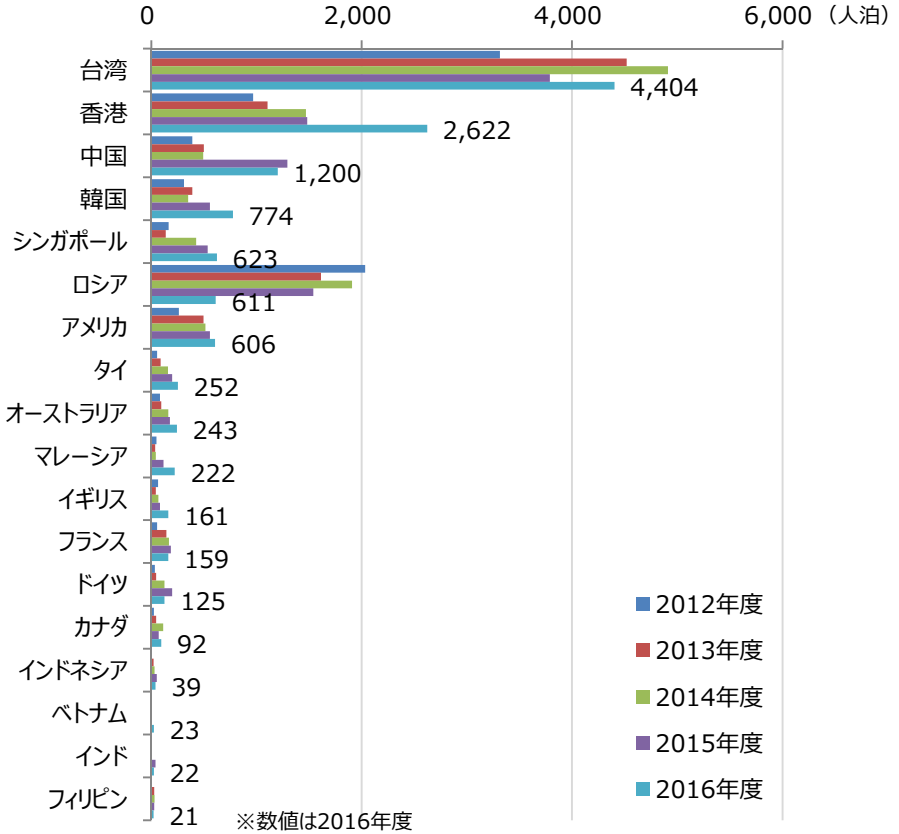
※2015年11月～2016年10月の数値

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」を元に（株）JTB総合研究所が作成

稚内市のインバウンド概況

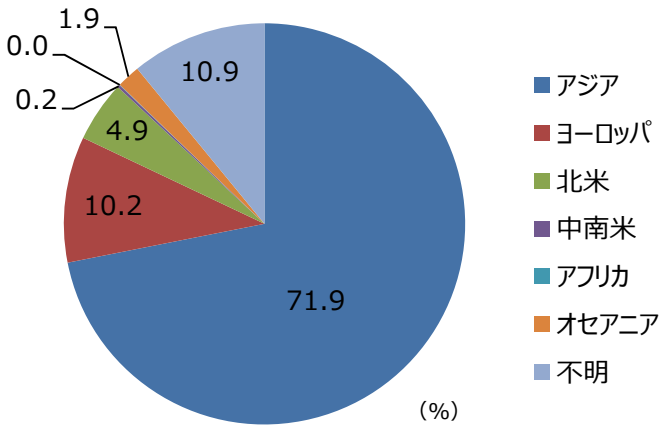
- 稚内市のインバウンドの概況をみると、市の統計では、2016年度の外国人宿泊客の国・地域は台湾（4,404人泊）が最も多く、香港（2,622人泊）、中国（1,200人泊）、韓国（774人泊）、シンガポール（623人泊）と続く。
- 台湾は2015年度に減少したが、2016年度は再び増加。香港は2016年度に大幅に増加。ロシアは2015年度までは延べ1,500人泊以上宿泊していたが、2016年度は611人泊に留まった。
- アジアが全体の7割以上を占め、ヨーロッパが1割、北米が5%となっている。

外国人延べ宿泊者数



※数値は2016年度
※インドネシア、ベトナム、インドは2013年度から追加

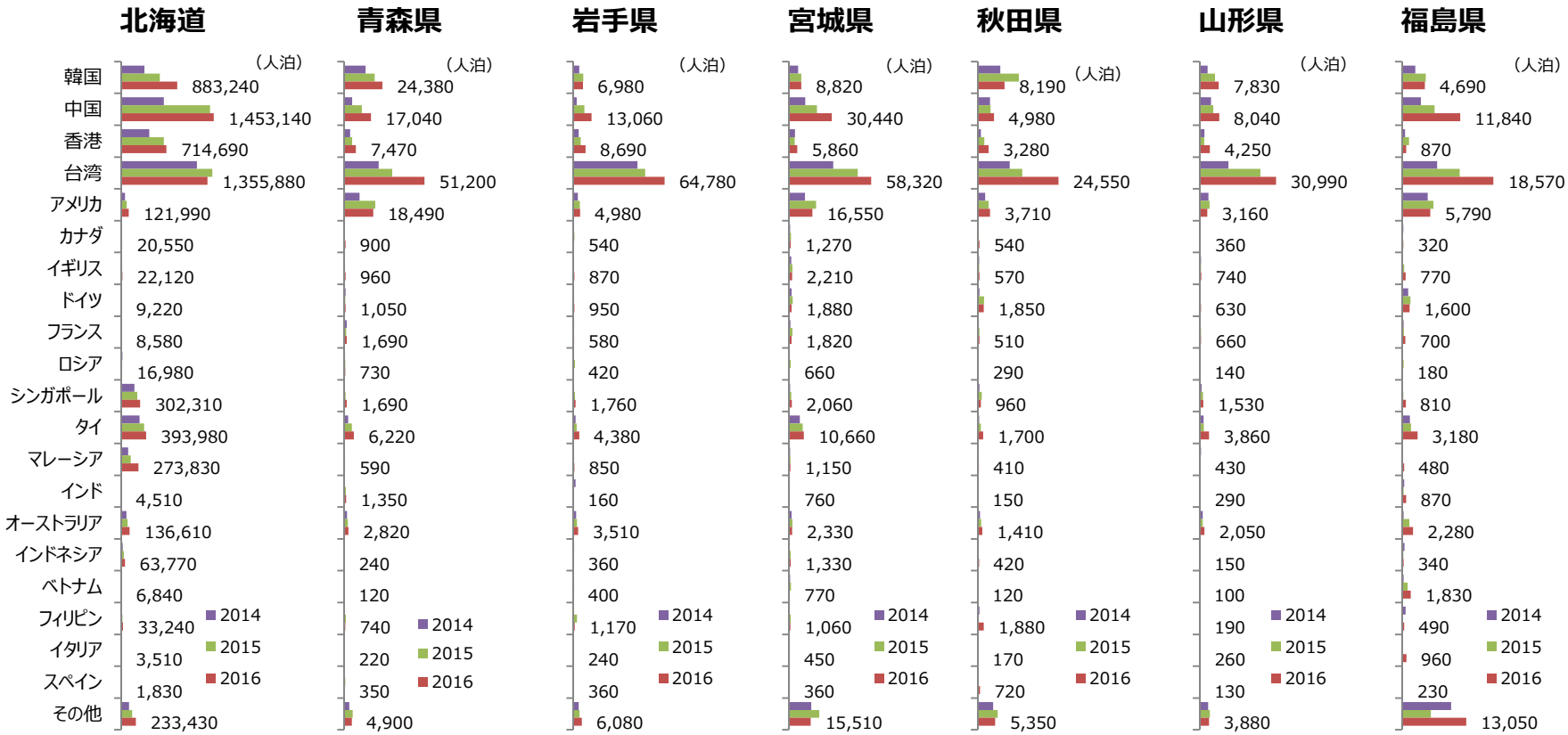
外国人延べ宿泊者の地域別割合（2016年度）



北海道及び東北6県のインバウンド概況（１）

- 北海道内の宿泊施設に2016年に宿泊した外国人の国籍は、中国が145万3千人泊で最も多く、台湾が135万6千人泊、韓国が88万3千人泊、香港が71万5千人泊で続く。
- 中国、韓国、香港は過去3年間増加している。一方、台湾は2016年は減少している。
- 東北6県では、全ての県で台湾が最も多く、中国、韓国、香港、アメリカが続き、過去3年はおおむね増加傾向にある。

国籍（出身地）別外国人延べ宿泊者数

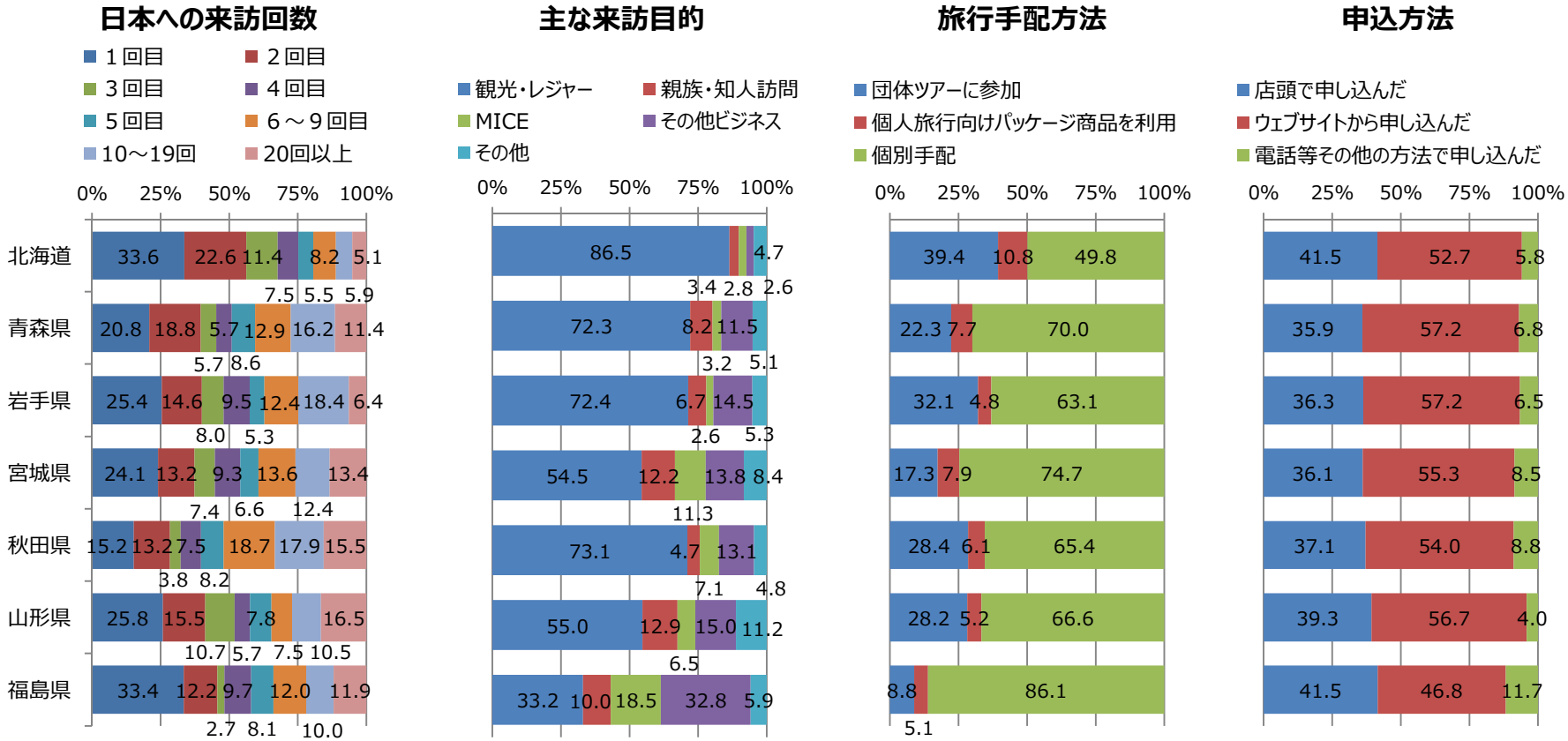


※数値は2016年
※イタリア、スペインは2015年から追加

出典：「宿泊旅行統計調査」（観光庁）を元に（株）JTB総合研究所が作成

北海道及び東北6県のインバウンド概況（２）

- 北海道及び東北6県を訪問した外国人の来日回数をみると、北海道と福島県は3分の1が初来日となっている。一方、2回目以降のリピーターが多いのは秋田県、青森県などで、秋田県は3分の1が10回以上訪日している。
- 全ての道県で「観光・レジャー」を目的とした来訪が最も多く、特に北海道は87%を占める。一方、福島県は「その他ビジネス」も多い。
- 訪日旅行の手配方法は、全ての道県で「個別手配」が最も多いが、北海道は「団体ツアー」が約4割と多い。
- 申込方法は、全ての道県で「ウェブサイトから」が最も多い。福島県は「電話等その他の方法」が比較的多い。



※「MICE」は「インセンティブツアー」「展示会・見本市」「国際会議」「企業ミーティング」、「その他ビジネス」は「研修」「その他ビジネス」、「その他」は「観光・レジャー」「親族・知人訪問」及び左記以外の計

出典：「平成28年訪日外国人消費動向調査」（観光庁）を元に（株）JTB総合研究所が作成